

# 第13回臨時大会の成功を勝ちどめ

## 日刊 動労千葉

87. 12. 14  
No. 2721

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）公衆（〇四七）二二七二〇七

一年間の闘いの成果を  
血とし肉として

動労千葉は、「四・一」を間にはさむこの一年間を無我夢中で走りぬけ、そして勝利してきた。この一年間は、あらゆる困難をはねのけ、反撃に立ち上がり、活路をきりひらいてきた一年間であるといえる。

また、この一年間の闘いは汲めどもつきぬ教訓をわれわれにあたえてくれた。どんなに苦しくとも、団結を守りぬくことの重要性、闘いを貫く以外に労働者の未来をかちとる道はないこと、労働者を裏切っていく者たちの醜さ、闘いぬくことの素晴らしさ、労働運動をおし潰すためには手段を選ばぬ権力・当局の本質を全ての組合員が脳裏に焼きつけたこと、等々。これらは、動労千葉のかけがえない財産となつて、今後あらゆる闘いの糧となつていくことであろう。

われわれは、第十三回臨時大会において、この一年間の終りにあつて、今一度一年間を総括し、強制出向粉砕と、組織・財政基盤の確立を軸とした当面する闘いの方針を確立しなければならない。

木原線廃止攻撃との闘いを軸に  
より強固な闘争体制を！

とりわけ、木原線廃止一いすみ鉄道出向問題は、今後更にどしどしと強制出向をおし進めようとするJR当局、鉄労革マル鉄道労連との闘いを展望するとき、決定的に重大な闘いの課題である。われわれは、この闘いにおいて、労働組合を敵視し、本人の同意すら無視し、労働条件も明らかにしないで、強制出向を進めてきたJR当局に対し、このような理不尽なやり方を許さぬ力関係をつくりあげなければならぬ。第十三回臨時大会は、この方針を確認する重要な闘いである。

また、十二回大会で確立した「組織・財政基盤の確立路線」を、更に全組合員のものとして、原職奪還の闘いをより強化しなければならぬ。闘いは山積している。「六三・三ダイ改」合理化粉砕の取り組みも、この暮から闘いに突入する。反合運動保安闘争を軸に、「六三・三」粉砕の闘いの体制を構築することは急務である。

動労革マル鉄道労連を先兵とした、戦争に向けた労働戦線の再編攻撃と対決し、第十三回臨時大会の成功をかちとろう。

12.10  
船橋上映会に100名参加



さらに上映会の成功を!! (写真は街宣活動)

### 「三報」を見て……感想文

「四・一」分割・民営強行から七ヶ月経た今、映画第三報を観てじーんと熱いものを感じました。「孤立」しながらも、あくまでも労働組合の原則に立って組合員・家族が一丸となつて事にあたり大勢として新会社に入り込み、あくまでも団結を守っている……。動労革マルの屈服とみじめな破産と比較すると本当に動労千葉にいてよかつたという気持がわいてきました。それと同時にこの勝利が、処分された仲間・清算事業団の仲間の「犠牲」のうえにかちとられていることを新めて確認し、彼らをなんとしても守り、奪還するぞという決意を新たにしました。

特に映画の中で家族会の決起がひとときわ印象に残っています。色々大変な条件の中で、お父さんを支え立ちあがっている。これこそ動労千葉の底力を示す重大な意義があるし、これからその真価が発揮されていくのではないのでしょうか。

映画をみた一〇〇名余の仲間は激しかった一年間をやりきってきたという自信と決意を感じました。八八年を闘うにあつて良い充電となつたといふのが感想です。